

二〇一七年度

# 「国語」問題

## 注意事項

- 1 問題および解答用紙は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙の所定の欄に楷書で記入してください。
- 3 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 問題は1ページから11ページまでです。

〔問題一〕 次の(1)～(2)の各設問に答えなさい。

(1) 1～6の文中の——線部(a)～(h)について、漢字はひらがなで読み方を示し、カタカナは漢字に改めなさい。

1 そもそも国政は、国民の厳肅なシ<sup>(a)</sup>ンタクによるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれをキ<sup>(b)</sup>ョウジュする。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基<sup>(c)</sup>くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔<sup>(c)</sup>勅を排除する。

(日本国憲法 前文)

2 清はおれを前へ置いて、いろいろおれの自慢を甥<sup>(d)</sup>に聞かせた。今に学校を卒業すると麴<sup>(d)</sup>町あたりへ屋敷を買つて役所へ通うのだなどと吹聴<sup>(d)</sup>した事もある。

(夏目漱石『坊ちゃん』による)

3 扉のすぐ横には黒塗りの立派な金庫も、ちゃんと口を開けて置いてありました。鍵まで添えてあつたのです。

「ははあ、何かの料理に電氣をつかうと見えるね。金<sup>(e)</sup>気のもの

はあぶない。ことに尖<sup>(e)</sup>つたものはあぶないと云<sup>(e)</sup>うんだらう。」  
「そうだらう。して見るとカンジ<sup>(e)</sup>ョウは帰りにここで払うのだらうか。」

(宮澤賢治『注文の多い料理店』による)

4 現在、農林水産省では、文部科学省が推進する「早寝早起朝ごはん国民運動」や関係業界とも連携し、カン<sup>(f)</sup>ミンあげての「めざましごはんキャンペーン」を展開し、「朝食欠食率の高い若年層を中心に、朝ごはんを毎日食べるよう呼びかけています」とあります。

(戸田山和久『科学的思考』のレッスン』による)

5 あなたが何か食べたいと思い、外に出たとしましょう。そうすれば町の至る所にスーパーマーケットやコンビニエンスストアがあるはず。あなたはお金を持ってそこへ行けば、比較的安価でおいしい食材やキ<sup>(g)</sup>セイの食品など、待つことなく、すぐに購入することができます。

(森田幸孝『インターネットが壊した「こころ」と「言葉」』による)

6 オバマ米大統領は被爆地広島を訪れ、平和記念公園で演説を行  
い、悲しみやイカンの意を示した。演説前には慰霊碑に献花も  
行った。

(平成28年の新聞記事より)

(2) 設問(i)(j)の( ) ( ) に当てはまる表現を後の【語群】ア～エ  
から選ぶとき、どれにも当てはまらない表現を一つ選び、記号で答  
えなさい。

(i) 彼は雄弁ではないが、( ) ( ) 語る姿に誠実さを感じる。  
決められた手順に従って( ) ( ) 処理を進めていくだけで。  
まばゆいばかりのネオンが夜の街を( ) ( ) 照らしていた。

(i) 【語群】

ア こうこうと  
イ しゆくしゆく  
ウ さんさんと  
エ とつとつと

(j) 画家としての才能は、祖父の代から( ) ( ) 受け継がれて  
いる。  
彼が自身の過あやまちに気づくよう、( ) ( ) 言って聞かせた。  
入学試験に合格した喜びが( ) ( ) 沸き起こってきた。

(j) 【語群】

ア みやくみやくと  
イ じゆんじゆんと  
ウ ふつふつと  
エ ばくばくと

〔問題二〕 次の文章は江戸時代の随筆『耳囊』の一節です。本文を讀

んで後の設問に答えなさい。

先祖伝来の封筐のこと

予の親友なる万年某語りけるは、同人家に先祖より伝はりし一つの封筐あり。上包みを解き見しに、(A)「子孫窮迫の時開くべし」とあり。その頃万年至つて危急なりしかば、(B)「かかる時先祖の恵みを残し給ふありがたさよ。いざ開封なしてその妙計に従はん」と、右箱の封なほまた切り解きてその内を見しに、何もなくて一通の書面あり。これを開き見れば、三代前の祖の自筆にてしたため置きしは、(C)「先祖子孫を恵みて、危急の時開きて用を弁じ候ふやうの書き添へにて、黄金一枚この箱の中にありしを、我ら危急の入用ありて使ひて先祖の高恩に浴しぬ。なにとぞその基ひを償ひ置かんと生涯心かけしが、その時節なし。子孫これを忘れず、元祖を思ひて償ひ置くべし」としたためし故、大いに笑ひて(D)「また黄金一枚の借用の増せし心せし」と笑ひけると語りき。

※1 封筐……封をした箱

※2 予……わたし

※3 万年某……万年氏の誰か

問1 (A)～(D)の「」はそれぞれ誰の発言(または書き置いたも

の)ですか。次の組み合わせの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

(A) ア 万年某——万年某——万年某の曾祖父——予

(B) イ 万年某の元祖——万年某——万年某の曾祖父——万年某

(C) ウ 万年某——万年某の元祖——予——万年某

(D) エ 予——万年某——万年某の元祖——予

問2 ——線部(1)「窮迫」と同様の意味の語句を本文中から探し、解答欄に記しなさい。

問3 ——線部(2)「先祖の恵みを残し給ふ」とありますが、先祖が残した恵みとは具体的には何でしたか。本文中の語句を抜き出しなさい。

問4 ——線部(3)「候ふやう」は歴史的仮名遣いで書かれています。「候」の読み方を含め、すべて現代仮名遣いに改めなさい。

問5 ——線部(4)「なにとぞその基ひを償ひ置かん」とありますが、

どのようなことを言っているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何とかして使ってしまった元の金額をうめあわせよう。

イ どうかお願いします、元の通り弁済しておいてください。

ウ 何かを元手にして、子孫の生活の基盤を作る手段を考えよう。

エ どうしても自分が反省していることを子孫に伝えたい。

問6 ——線部(5)「笑ひける」とありますが、どうして笑ってしまったのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

い。

ア 先祖が残した恵みを使った曾祖父が、わずかな金額なのに一生かけても弁済できなかったことが不思議だったから

イ 封筒を開けたところ結局その中にはわずかな金額しか入っておらず、期待し、当てにしてしまった自分自身が滑稽で仕方なかったから

ウ 期待したお金が手に入らず、明日からの生活のことを思うと絶望的な気持ちになってしまったが、こうなったら開き直って無理にでも笑ってしまうよりほかないと悟ったから

エ 当てにしていた先祖の恵みは、すでに使われてしまっていたことが分かり、その上その金額を弁済しておくようにと記されていたので、まるで借金が増えたような気がしたから

〔問題三〕 次の文章を八十字以上百字以内に要約しなさい。

- ① 三文で要約すること
- ② 第二文の書き出しを「しかし」、第三文の書き出しを「つまり」で始めること  
(……………。しかし……………。つまり……………。)
- ③ 解答欄の一マス目から書き始め、句読点も一字に数えること

「今さら引き返すのは、プライドが許さない」「プライドが邪魔をして、頭を下げられなかった」。このような発言を耳にしたことはないだろうか。

ここでいう「プライド」は、ここ一番での決断力を鈍らせ、その人が次のステップに一步踏み出すことを妨げる、いわば足かせのような存在となってしまう。このような存在になってしまうのは、私達がプライドの正体を履き違えているためなのである。

私達とはかく、プライドとは、何か他人にできないような偉業を達成できたときに初めて生まれるものだと思ってしまうがちだ。プライドを持つには、他者と比べて秀でた能力や素質が自分がないと駄目だ。そんなふうを考えるから、自分にしかない優れた特性を、日々必死になって探してしまう。そんなもの、滅多に存在しないのに。私達は、他人にはない特性があることへプライドを持つ資格があることへ、ひいてはへ自分の存在価値があることへ、という考えに捕らわれてしまっているのだ。だから、引き返したり頭を下げたりするの

は、自分に優れた特性がないこと、さらには自分の存在価値がないことを認めるようで、実行するに耐えない行為なのだ。

だが実は、自分だけの優れた特性なんて躍起になって探す必要なんてない。プライドとは、今現在いる自分がこのままで他人に大事にされている、受け容れられていると感じる、本来そのような経験をしたときに生じるものなのだ。この、他者から大事にされているという思いは、何か大仰なものをしてもらわないと感じられないものではなくて、だれもが日常ささいなときに何度も味わえているはずのものである。たとえば学校を休んだ翌日、登校した際に、だれかが「どうしていたの？」と尋ねてくれたとき、じんわり嬉しくなるだろう。その嬉しさが、自分が存在することへの自信に変わっていく。この自信こそがプライドの正体なのだ。

他者との関わり合いによって、私達は自分が何か意味のある存在であることを身に沁みて知る。このような経験を積み重ねることで、人はおのれの存在に誇りを持つようになっていく。自身の存在を承認される経験、自分が周囲から価値ある存在と認められる経験を重ねて、人は安心感や自信が生まれ、自分自身を尊重する気持ちが生まれる。プライドとは、こうして存在を肯定される環境の中で揺るぎのないものとして育っていく誇りなのである。このように育ったプライドは、成長の足かせではなく、自身の生きる土台となるのだ。

(本文を作成するにあたり鷺田清一『大事なものは見えにくい』を参考にした)

100	80	60	40	20

(下書き欄 2)

100	80	60	40	20

(下書き欄 1)

〔問題四〕 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

自分で選び、決めるということ。このことに、現代の多くの社会学者が注目している。それは「個人化」や「自由」という近代社会の特徴が孕む<sup>はら</sup>すばらしさとそれがもたらす困難をいま考えなければならぬいからなのだろう。そのひとり、イギリスのアンソニー・ギデンズの考えを、ここではがかりにしてみたい。その鍵となるのが、「再帰性<sup>(1)</sup>」という概念である。

「再帰性」とは難しそうな言葉だが (myself のような「再帰代名詞」を連想すればいいだろう)、私たちが行為したとき、その行為を振り返って、それが置かれた文脈や意味を知り、その吟味の結果を新しい行為に反映することをさす。つまり、自分の行為を反省する、自分で自分をモニターすることと思えばよい。私たちの行為にはこういうモニタリングがされる場合 (これでよかったかと反省し、よかつた↓このまま/よくなかつた↓変えよう) と、この回路が働かない場合があるだろう。ギデンズは、近代の特徴を再帰性<sup>(2)</sup>が「見境もなく働く」ことだという。

近代以前もこのモニタリングは存在しただろうが、その重要な基準は「伝統」だった。過去そうだったからそうする、そうできているか? とモニタリングする。だが近代はこの基準をもたない。過去はそ

うだったかもしれないが、これでいいのか? たとえば、これまでこの技術や投資で企業を経営してきたが、これでいいのか? 企業は帳簿をつけて自己の業績をモニタリングし、よりよい経営方針を選ぶ。政府の政策はこれでいいのか? 政府は各種の統計をとって社会をモニタリングし、政策を変更する。また民主主義的選挙により政府そのものが選択される。近代ではさまざまな制度に「再帰性」が備え付けられるようになる、というのだ。

そして、ここで自己もまた再帰的プロジェクトとなる。<sup>(3)</sup> 伝統社会では、私がどんな仕事をするか、どんな人と結婚するかなどは自分がモニターして決めることでなく、伝統に従って「生まれ」で決まっていた。些細なことだが、なにを着るか、どんな髪形かも、身分や性別によつて決められ、再帰性の対象ではなかったかもしれない。だが私たちはこれらをつねに自分を観察しながら選ぶ。どの仕事がいいだろう、どの人と結婚すればいいだろう、きょうはどの服装が、髪形がよいだろう。それを決めるために私たちはいつも自分を観察する。「今何が起きているか? / 私は何を考えているか? / 私は何をやっているのか? / 私は何を感じているのか?」。

自分を振り返りそれを基準に選び・決められるのは、近代のすばらしい成果だろう。この身分、この性別、この家出身だからという「生まれ」で決まるのではなく、自分がやりたいことを反省しそのために



行動することでそれができるようになるわけだから。個人が自由に「自己決定」できる世界がここにある。自己のレベルにおいては、日常の活動の基本的な構成要素とは、単純なことだが、選択の活動である。私は、私が生きている世界を「選ぶ」ことができるのだ。

ギデنزが描くこの近代の「自己」とは、とても自由で、自分で選び・決めることができるいわば「私らしい私」である。しかし、それだけだろうか。もう少し考えよう。

さきほど述べた「選択」の基準とはなんだろうか。ここで伝統は基準にならない。誰か他の人がいうことも基準にはならない。私が私の気持ちを再帰的にモニターしてしたいこと・できることを選ぶ。外に従う（「外的準拠」）ではなく、自分のみに従う（「内的準拠」）。

しかし、モダニティは個人を複雑多様な選択に直面させ、さらにそれは根拠づけられていないゆえに、どの選択肢を選ぶべきかについてはほとんど助けてくれない。<sup>(5)</sup>私の選択の根拠はどこにあるのだろうか。私がある仕事を、ある結婚相手を選んだとしよう。私の気持ちを反省しそれを根拠に、他にもありえたなかから私を選んだ。だからこれは、もつとも私らしく確かな選択だ。他に選択肢がない場合や、他から強制された選択と比較するとき、間違いなくこのように私は感じることができるだろう。

だが、こう感じてしまうことはないだろうか。私は私の気持ちを根

拠に選んだ！ということは、私を選んだという事実、そのときの私の気持ち以外に根拠はないということではないか？ ひとつを強制されるのではなく他も取りうる選択肢からこれを選んだ！ということは、やはりこれ以外の選択肢も選びえたのではないか？ 私の気持ちというもつとも確かに思われた根拠が、むしろもつとも無根拠に見える。この反転は、自分以外の基準を排除した「内的準拠」による選択・決定においては、どうしても生じてしまうものではないだろうか。

現代の人間関係にもこの確かさと不確かさの二重性が見られる。友人や恋人となぜいっしょにいるのか。ギデنزはこうした親密な関係が、現在「純粋な関係性」<sup>(6)</sup>に近づいている、という。これは、社会関係を結ぶというそれだけの目的を保つことのために、つまり互いに相手との結びつきから得られるもののために社会関係を結ぶ関係性である。その関係があるから経済的に得をするとか、伝統でこの人につきあうと決まっているとかではない、「いまこの人になりたい」という気持ちだけを根拠にした関係性に近づく、というのだ。

これを「ロマンティック・ラブ」<sup>(7)</sup>と比べてみよう。これも得とか伝統とかの基準ではなく、ある唯一無二の「特別な人」と一生連れ添う、という愛の形だ。しかし、この愛には「いまいっしょにいたい気持ち」という内的基準以外の外的な（不純な）基準が入り込んでいる。過去のあるとき「この人といっしょ」と思ったこと、将来ずっと

「いっしょにいたい」と思うこと、この「過去」や「未来」が「現在」の純粋な気持ちを阻害するかもしれない（「いまはいたくないけどがまん」の不純さ）。「純粋な関係性」は、「いまいっしょにいたい」という基準だけで関係を結ぶ。このとき、きょうはこの人と「特別な関係」だったが、きょう、自分の気持ちをモニターしてみると別のあの人と「特別な関係」にいたいと思うかもしれない。このような「純粋な」愛の関係を、ギデنزは「合流する愛」と呼び、この愛は「能動的」で「偶発的」（つまり、たまたま）である、という。

この愛はとても対等だ。各自が気持ちをモニタリングして、いたいと思えばいっしょにい、いたくないと思えば別れる。「ずっといっしょに」という基準に抑圧されず、対等で自由に関係を結び・ほどく。だがとても不安定であることも明らかだろう。純粋な関係性の特徴はいつの時点においてもいづれか一方のほぼ思うままに関係を終わらすことができる点にある。この関係は「私の気持ち」だけを根拠にする。この基準は変わりうるものであり、根拠はこれだけという不安が関係を取り巻き続ける。

こうして、再帰的プロジェクトとしての自己は無根拠さを感じ続ける。自分の気持ちをモニターしてそれを根拠に自分で選択する、でも根拠は自分の気持ちしかない。他の基準をどこまでも排除するとき、私たちは限りなく **A** になり、同時につねに **B** に晒される。

（『未知なる日常への冒険』より）

問1 ——線部(1)「再帰性」とは、「自分」を例としたときによ  
うなことを指しますか。その説明として最も適当な部分を本文  
から十五字以内で抜き出さない。

問2 ——線部(2)「再帰性が「見境もなく働く」とはどういうこと  
ですか。その例として最も適当なものを次の中から選び、記号で  
答えなさい。

- ア 商社が、売り上げの減少した内部要因を徹底的に調べること
- イ 若者が、自覚のないまま転々と職を変えて働こうとすること
- ウ 官庁が、毎日、日本全国の明日の天気をくまなく予想すること
- エ 銀行が、景気はいずれ回復するはずだと楽観的に構えること
- オ 人々が、老若男女の別なく他人の気持ちを確かめようとする  
こと

問3 ——線部(3)「自己」もまた再帰的プロジェクトとなる」とはどのようなことですか。その例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大学時代の友人と新しくベンチャー企業を立ち上げること
- イ 奨学金を得ようと自己のこれまでの履歴を振り返ること
- ウ 大学卒業後に、生まれ育った地元に戻って就職すること
- エ 自分にふさわしいと思う就職先を自分自身の手で探すこと
- オ 結婚するのにふさわしい時期を占い師に教えてもらうこと

問4 ——線部(4)「近代の「自己」とはどういうことですか。その例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いついかなるときも、誰に対しても分けへだてなく接することのできる「私」
- イ 幼いころから抱いていた夢を金銭的理由であきらめざるをえず悩んでいる「私」
- ウ 祖父母・両親から受け継いだ伝統的職業を自分の代で終わらせようとする「私」
- エ 家族の前では自然でいられるのに、友人の輪の中に入ると緊張してしまう「私」

オ 世界で通用するためには、知識と教養と語学が必要だと言われ焦っている「私」

問5 ——線部(5)「私の選択の根拠」はどこにあると述べられていますか。最も適当な部分を本文中から五字で抜き出しなさい。

問6 ——線部(6)「純粹な関係性」と——線部(7)「ロマンティック・ラブ」はどのような点において異なっていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ロマンティック・ラブは伝統的であるのに対し、純粹な関係性は革新的である点
- イ ロマンティック・ラブは永遠を目指すのに対し、純粹な関係性は現在に立脚する点
- ウ ロマンティック・ラブは不純な動機を孕むのに対し、純粹な関係性は哲学的である点
- エ ロマンティック・ラブは受動的であるのに対し、純粹な関係性は能動的である点
- オ ロマンティック・ラブは内的基準をもつのにに対し、純粹な関係性は外的基準をもつ点

問7 空欄 A・B に当てはまる適切な語句を、本文中からそれぞれ二字で抜き出しなさい。

問8 本文の内容を踏まえた筆者の立場を説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「個人化」がもてはやされる近代社会は、人類がついに到達した、自分のことを自分で決め、「私らしい私」として生きることの可能となったすばらしい社会である。

イ 政府や企業はつねにセルフ・チェックを行い、方針や施策の妥当性を検証するようになってきているが、その検証結果が必ずしも次の成功につながるとは限らない。

ウ かつては自分の人生を左右する局面で思うままに振る舞うことができなかったが、今や、自己の判断に対する他人の影響を考慮する必要はなくなっている。

エ 職業や結婚相手を選ぶ際、私たちは常に自分を観察し、自身身の「内的準拠」に従っているように見えるが、この選択の根拠とは非常にあやふやなものである。

オ 「生まれ」に基準を求めない再帰的社会が到来することによって、私たちはついにロマンティック・ラブの理想へ近づき、「特別な人」と一生連れ添うことができるようになった。

(以下余白)

